

第15回「助成研究吉田秀雄賞」決定 「吉田秀雄賞」6年ぶりの選出

当財団は、第15回「助成研究吉田秀雄賞」の受賞者を決定しました。本賞は、当財団が行っているマーケティングおよびコミュニケーションに関する研究助成事業の成果の中から、特に優れた研究を顕彰するものです。選考委員会（選考委員長 亀井昭宏早稲田大学名誉教授）による厳正な審査の結果、平成28年度に当財団が助成した研究成果（常勤研究者の部5件、大学院生の部6件）の中から、下記の方々が受賞されました。最高賞の「吉田秀雄賞」は、第9回以来、6年ぶりの選出となります。

贈賞式は、11月9日（木）当財団で開催されました。



第15回助成研究吉田秀雄賞受賞者の方々（前列3人）と亀井昭宏選考委員長（後列右から3人目）

受賞者一覧

常勤研究者の部

（肩書は論文提出時のもの）

賞	研究テーマ	研究者名
吉田秀雄賞 （副賞100万円）	「良いクチコミの悪い働き—『疑念効果』の発生と抑制」	代表研究者 久保田進彦 （青山学院大学経営学部マーケティング学科教授） 共同研究者 澁谷 寛 （学習院大学国際社会科学部教授）

大学院生の部

奨励賞 （副賞10万円）	「クロスメディア環境下におけるオンラインビデオ広告の効果」	波瀬雅彦 （法政大学大学院経営学研究科博士後期課程）
------------------------	-------------------------------	-----------------------------------

※常勤研究者部門の準吉田秀雄賞／奨励賞、大学院生部門の吉田秀雄賞／準吉田秀雄賞は該当なし



受賞者の久保田進彦氏（中央）、澁谷寛氏（右）と当財団理事長



受賞者の波瀬雅彦氏（右）

第15回「助成研究吉田秀雄賞」の選考経過報告

常勤研究者の部で6年ぶりに吉田秀雄賞受賞論文が選出

選考委員長 亀井 昭宏

去る10月3日(火)に「第15回助成研究吉田秀雄賞」の最終選考会が、助成研究選考委員会委員13名中10名の出席を得て開催された。今年3月に研究が終了し、財団事務局宛てに報告書としての論文が提出された常勤研究者の部5件(2年間にわたる継続研究3件を含む)、大学院生の部6件を対象にして、学識経験者(大学教員2名)および財団事務局による第1次選考を通過した前者3件、後者4件を対象として最終選考が行われた。

選考は、委員全員に第1次選考を通過した全論文を事前に評価していただき、提出された得点表およびそれぞれの論文についてのコメント一覧を手許に、個々の論文について席上で改めて評価および審議を行う形で行われた。その結果、常勤研究者の部で久保田進彦・青山学院大学教授を研究代表者とし、澁谷覚・学習院大学教授を共同研究者とする研究報告論文「良いクチコミの悪いはたらき—『疑念効果』の発生と抑制—」が見事「吉田秀雄賞」受賞に輝いた。また、大学院生の部では洪瀬雅彦氏(法政大学大学院経営学研究科)の論文「クロスメディア環境下におけるオンラインビデオ広告の効果に関する研究」に「奨励賞」を授与することが決定された。

今回6年ぶりに「吉田秀雄賞」を受賞された久保田・澁谷両教授による研究論文は、もともと「自社Webサイトにおけるレコメンデーション効果の研究—クチコミ情報の正負比率とブランド態度形成の有無の視点から—」という研究タイトルの下に、平成27年度(第49次)助成研究として採択された2年間の継続研究であった。しかし、研究過程において議論の焦点が「態度形成」から「選択行動」へと変化したため、財団事務局の承認を得て報告書のタイトルを変更して、表記のタイトルの論文として提出されたものである。このあたりの経緯については提出論文の表紙に記述があり、本論文の内容について今後引用をされる場合の表記の仕方についても明確に付記されており、参照される場合などについては十分な注意を払っていただくことが肝要であろう。

本研究は、ネット社会において急速に影響力を拡大させているクチコミに焦点を当て、それが成立しているネット環境の違いや社会的信頼性、消費者行動の諸段階との関係を検証し、理論化しようとした研究である。内容的にはクチコミとマーケティング・コミュニケーションとの接点にあたる研究と位置づけられ、オンラインでのレコメンデーションについての正負バランスの効果、プラットフォーム効果、さらには疑念効果について実証研究を行っており、「織り込み効果」という新しい概念を導き出している等、実務面へのインプリケーションも極めて示唆に富んだ優れた研究であるとして、選考委員全員から高い評価を得た研究である。

本論文については、選考委員全員が何らかの賞に値するとの事前評価を下していたが、席上「吉田秀雄賞」に該当するとの評価を表明する委員が続出して、結果として圧倒的多数をもって同賞の授与が決定した次第であった。近年選考委員の評価が拡散して、なかなか「吉田秀雄賞」の選出には至らない場面が多かった中で、圧倒的多数をもって同賞の授与が決定されたことは欣快の至りであり、両先生のご努力に対して心からの敬意を表したいと思う。

また、大学院生の部で「奨励賞」に輝いた洪瀬氏の論文も、オンライン広告という比較的新しい課題について、実験に基づいてその効果を丹念に検証した研究論文であり、大学院生の論文としては出色の出来栄であったことを高く評価する選考委員が少なからずおられた半面、研究がやや中途で止まっている点や論文としてのまとめ方の精緻さの点などが考慮され、今後の研究展開への期待を込めて「奨励賞」授与の結論に至ったものである。

今回受賞された久保田・澁谷教授並びに洪瀬氏に心からの祝意を表するとともに、来年度も引き続いての受賞論文が提出されることを切に祈念するものである。と同時に、こうした優れた研究成果が期待できる研究助成の申請が続出することを心より切望している。

編集後記

障 害者の方への支援は続けることが何より大事と痛感。骨折し松葉杖通勤の知人が「電車で気を遣ってくれる人は少ないと気づいた」と語った。広告学会で水越先生が紹介された「スマホゾンビ」の増殖は止まらないが、困っている人に“スペースを空ける”“過ごしやすいつ体制のサポート”など、すぐにできることは広げたい。車いすユーザーでなくても投稿可能な『WheeLog! (ウィーログ!)』へ、外出先の写真を投稿する等でも役に立てそうだ。(傾)

「日 本では、人に迷惑をかけているように思えて、『ありがとう』の前に『すみません』という言葉が出てしまう。海外在住の日本人の障害者の方が、そうテレビで語っていました。“する側”と“される側”とを分けるのではなく、誰もが自分の可能性を出し合える社会づくりの大切さを感じました。今回の特集では、電通ダイバーシティ・ラボの方々にご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。(葡萄)

AD STUDIES 2017年12月25日号 通巻62号
公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
〒104-0061
東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル
TEL:03-3575-1384 FAX:03-5568-4528
URL: <http://www.yhmf.jp>

発行人 森 豊子
編集長 布施博嗣
編集部 沓掛涼香 岩本紀子
編集協力 市川嘉彦、プレジデント社
表紙デザイン 八木義博・畠山大介、中谷晴子(Creative Power Unit)
撮影 片村文人

本文デザイン 中曾根孝善 南 剛
校正 株式会社ウェリタ
印刷・製本 大日本印刷株式会社

© 公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
掲載記事・写真の無断転載を禁じます。